

事務事業名		市制10周年記念事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					担当組織	担当部	行政経営部	担当課	行政経営課
	政策	1 人権を尊重した市民参加によるまちづくり					担当係	行政経営係	担当課長名	齋川 一彦	
	施策	3 市政情報の共有と広聴活動の充実					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 広聴活動の充実					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	223	一般	2	1	1	市制10周年記念事業					
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	平成25年度～26年度		根拠法令 条例等	市単独事業・国県補助事業		市単独事業			
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		直営			
						事業分類		審議会・協議会等運営事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
市制10周年を記念して各種事業等を実施する。			市制10周年を記念して記念式典を開催するとともに、各種冠事業を開催し、市民とともに節目の年を祝った。 10/11 佐野市制10周年記念式典 会 場:佐野市文化会館 大ホール 来場者数:1,200人							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			実行委員会開催回数	回	0	2	1			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市民			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			市民	件	123,182	122,582				
目的										
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
合併10周年を市民とともに祝い、合併後10年が経過したことを再認識し、市民の一体感の醸成を高める。			総事業参加者数/市民	%	-	130.0				
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
市政に関心を持ってもらう。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			市民の意見が行政へ取り入れられていると認識している市民の割合	%	-	30.5				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円		7,000				
	事業費計(A)	千円	0	7,000	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					交付金	7,000		
	人件費	千円	0	3,941	118	0	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	10,941	118	0	0		

事務事業名	市制10周年記念事業	担当部	行政経営部	担当課	行政経営課	担当係	行政経営係
-------	------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	合併10周年の記念すべき年を祝うとともに、市民の一体感醸成のため記念事業を行う。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	合併による生活圏の広域化、少子高齢化の進行、地方財政悪化など
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	財政状況厳しき折、最小限の費用で充実した事業の実施に努めること。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	①実行委員会を組織し、各種事業等を実施する。 ②各開催冠事業等を実施する。
事業統合・連携	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	市長が過去の10年のあゆみや今後の施政方針等を述べることは、市民との情報共有を図ることにつながるため。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	市政に対する理解や市民とともに市制10周年を祝うために記念事業を開催することは、市が直接行うべきものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	市民とともに市制10周年を祝うため、一部の記念式典の招待者を除き、各事業で市民を対象にしており、見直す必要はない。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	市民に対して市政への関心が高まることが期待される。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入				
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	記念事業としての規模や市制5周年の結果を踏まえて算出したため、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない		理由・改善案	市制10周年を市民とともに祝い、市民の一体感醸成のためにも参加料等の徴収は妥当ではない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
節目の年の事業であるため、平成26年度をもって終了となる。					

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			